

平成30年度島根県公立高等学校入学者選抜について

1. 学力検査結果の概要

本概要は、平成30年3月6日に実施した学力検査における受検生の解答と得点状況を総括し、受検生の学力の傾向を示している。なお、過去の平均点や得点状況のデータも参考として掲載しているが、年度により問題の難易に差があるため、単純に経年比較することはできない。

【全般】

本検査は、中学校学習指導要領に沿って日頃の学習で積み上げられた学力を測るものであるとともに、問題作成に当たっては、昨年度同様、知識・技能に加えて、思考力・判断力・表現力等を問う問題を重視した。

学力検査結果全般から読み取れる学力の傾向は、次のとおりである。

- ①基礎的・基本的な事項については、概ね定着している。
- ②何が問われているか正確に読み取り、複数の知識・技能を結び付け、筋道を立てて考えや理由を説明する力に課題がある。

【国語】

漢字・文法・仮名遣いなど基礎的・基本的な学力が身に付いており、資料活用型の問題にも対応できていた。一方で、文脈を押さえて思考すれば正解にたどりつけるのに、傍線部周辺のみを切り取って「知識」から考えようとしたがために不正解となっていると思われるケースが、現代文・古文を問わず全体の傾向としてみられた。今後は、基本的な知識の確実な定着と同時に、筆者の言いたいことをきちんと押さえながら文章を読み、俯瞰的な全体像を構築していく力を養っていく指導が急務と考えられる。

【社会】

昨年度に続いて、地理・歴史・公民的分野の学習内容を関連付けて思考・判断し、表現する力をみる問題や、複数の資料を読み取り、決められた字数で表現する問題を取り入れた。このような問題は、まず何が問われているのかを正確に読み取る問題読解力が求められるが、それが不十分であるため、正解まで思考が至らない解答が多かった。一方、複数の資料や初出の資料の読み取りに粘り強く取り組む姿勢も見られ、中学校の授業改善の成果が現れていた。

【数学】

基本的な問題が多かったものの、問題数が昨年よりも増え、時間が足りなかった受検生もいたと思われる。基本的な計算問題に関しては正答率も高く概ね良好であった。一方で、「平方根」や「傾き」といった用語の意味理解が曖昧な面がうかがえ、意味理解をともなった知識・技能の習得が望まれる。また、説明や方法を答える問題に関しては、必要な数値や事柄を用いて説明したり、筋道を立てて説明したりする力は十分ではなく、情報を整理し、身に付けた知識・技能を解決に活用する力についても育成が望まれる。

【理科】

全体の無答率は昨年度より低く、基礎的・基本的な知識・技能を問う問題の正答率は高かった。一方、記述やグラフの作図など、思考力・判断力・表現力を必要とする問題は正答率が低く、特に複数の知識を結び付けて考察する問題は極端に低かった。自然の事物・現象を理解し定着させ、その知識を主体的に活用するとともに、文章やグラフなどを読み取る力、観察・実験の技能・結果・考察を文章やグラフなどに正確に表現する力、実生活や他教科で身に付けた知識・技能を活用する力の育成が必要である。

【英語】

表やグラフから必要な情報を読み取る力には一定の成果が見られたが、まとまりのある英文を読み解く力には依然として課題がある。読んだ内容を理解した上で表現する問題については、求められている解答が何であるかを思考・判断できず、趣旨に合わない英文を書く受検生が多かった。また、英語で表現するという課題に最初から向き合えず、無回答の受検生も見受けられた。「読むこと」と「書くこと」等、複数の技能を統合した言語活動が中学校で進められてはいるが、定着に向けた一層の授業改善が望まれる。